

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		名古屋芸術大学		設置者名	学校法人 名古屋自由学院			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
音楽学部	演奏学科	115人	中一種免(音楽)	平成16年度	63人	26人	26人	8人
			高一種免(音楽)	平成16年度			26人	
	音楽文化創造学科	120人	中一種免(音楽)	平成16年度	67人	10人	8人	4人
			高一種免(音楽)	平成16年度			10人	
美術学部	美術学科	160人	中一種免(美術)	平成19年度	111人	39人	30人	5人
			高一種免(美術)	平成19年度			39人	
			高一種免(工芸)	平成19年度			1人	
デザイン学部	デザイン学科	175人	中一種免(美術)	平成13年度	165人	14人	12人	4人
			高一種免(美術)	平成13年度			14人	
			高一種免(工芸)	平成13年度			0人	
人間発達学部	子ども発達学科	140人	幼一種免	平成18年度	112人	95人	87人	41人
			小一種免	平成18年度			44人	
入学定員合計		710人	合計		518人	184人	297人	62人
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。 							

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年7月17日（木）

実地視察大学：名古屋芸術大学

実地視察委員：八尾坂修委員、佐々祐之委員

【全般的事項】

- 教職課程を充実させようという姿勢、積極的な取組が見られたことは高く評価できる。
- 教育課程について、「2.」で指摘するように、教職課程認定基準の観点からは是正すべき点の確認されたため、その点について、既に改善に着手されていたが、引き続き基準を満たすよう是正すること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教員養成に対する理念・構想が明確化されており、それを具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織を整備しようという姿勢が見受けられる。
- 全学的な組織である「教職課程等経営委員会」が、教職課程に関する全学的な方針を調整・決定し、また基準等を満たしているかどうかのチェック機能を果たしている。また、実際の教職課程の運営については、下部組織である「教職センター委員会」でシラバスやカリキュラム案の検討を行うという体制が構築されており、組織的な確認体制が全学的に整備されていた。シラバスのチェック機能についても今年度から機能し始めたことが確認されており、引き続き、学長のリーダーシップのもと、両委員会が連携し、教職課程の実施・指導体制の充実に努めていただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 「教科に関する科目」については、自学科等での開設を原則としている一方、教職課程の科目内容の水準維持・向上等を図る観点から、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の半数までは他学科又は共通開設の科目を充てることを可能としている。しかし、一部課程においては、科目区分の半数を超えて他学科又は共通開設の科目を充てているように見受けられたため、それら課程については、教職課程認定基準を満たすように速やかに是正すること。
- 各教科の指導法について、一部課程において開設単位数の不足が見られた。「教職課程認定審査の確認事項」2（3）を踏まえ、適切に開設すること。
- 「教職に関する科目」について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「各科目に含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスでは判断できない授業科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うよう

にすること。また、シラバスの記載内容及び記載方針を定め、法令に定める「各科目に含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにすること。

- 一部科目について、テキスト又は参考資料の不足が見られたため、シラバスに追記すること。
- 授業の質を向上させる上で、シラバスの充実は欠かせないものである。シラバスのチェック体制、ファカルティ・デベロップメント等を含め、授業の質を向上させる取組みを引き続き行っていただきたい。

3. 教育実習の取組状況

- おおむね良好に実施されているが、他県出身者については、学生の母校における実習が多いことが確認された。
- 大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後、地元の教育委員会や学校との連携を進め、近隣の学校における実習先の開拓に努めていただき、実習期間中も常に大学が主体的に実習に関わっていく指導体制づくりをお願いしたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- オリエンテーションの実施や、個別面談等で教職指導を実施している体制が確認されたが、現行の体制では、個々に教職指導は実施されているものの、履修関係であれば教務部が担当し、実習関係であれば実習指導部が担当するといったように、支援体制が統合されていない状況である。
- 教職課程を履修している学生が、履修指導や実習指導、採用試験関係の情報提供等、総合的にサポートしてもらえるような組織になるよう、教職センターの充実を期待する。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 名古屋市教育委員会が実施する「ふれあいフレンド」「トワイライトスクール」といったボランティアに加え、教員が有志で実施する小学校体験活動や、地域住民を招いて子供・保護者とともに遊ぶ「にこにこワークショップ」という地域貢献に軸足を置いた活動も見受けられた。現状は個々に取り組んでいる状況であるため、いかに全学的な取組として束ねていくかというところに注力いただき、地元教育委員会・学校との連携・協力体制を一層強化するよう努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 図書館において、教科書、学習指導要領、教科書の指導書が非常に充実しており、環境はよく整備されていると言える。
- 学生が実際に教科書や学習指導要領を使用する場面は、教育実習中の授業づくりの場面であることが想定されるため、教職センターのような場所で学生が複数人集まって授業づくりを行えるように、さらに図書環境及び設備環境が整備されていくことを期待する。

7. その他特記事項

- 特になし。